日本勤労者山岳連盟・静岡県勤労者山岳連盟

裾野麗峰山の会 (sine１９９４)

第２６期・12巻　　２０２１年　３月号　　ＮＯ．235

仲間と仲間を結ぶ機関誌

すーほう

Susono Reihou Alpine Club

雪の記憶

山行ＮＯ．１９０６
２０２１．０２．１３
横岳・杣添尾根

２０２１年度　３月度例会資料　　２０２１、０３．０６

１．　報告・当面の予定

０１月　２６日（火・個）・・・東天狗岳　２名
　　２７日（水・個）・・・富士山・上塚　２名
０２月　０４日（木・個）・・・富士山・上塚（山岳スキー）
　　０９日（土・個）・・・七施会＝富士山・幕岩～上塚　４名
　　１３日（土・会）・・・アルパイン＝横岳・杣添尾根　４名
　　１８日（木・個）・・・西丹沢＝（下）権現岳　２名
　　１９日（金・個）・・・湯河原＝幕岩　多数
　　２０日（土・会）・・・定例ハイク＝宇佐美・巣雲山（延期）
０３月　０２日（火・個）・・・七施会＝坪庭
　　０６日（土・会）・・・定例アルパイン
　　０７日（日・県連）・・第５５期・県連総会
　　２０日（土・会）・・・定例ハイキング

２．財政部から・・・会費集めています。

３．寄贈会報とピックアップ

「山靴」　練馬山の会　2020 秋号　NO.333　ｐ35　紙製本
＊会報のアンケートを実施した。会員６９名中、回答５０名。必ず読む方２１名、パラパラめくる程度１１名、興味ある記事だけ１３名、殆ど読まない方５名。意外と読まれていないのは、どこも同じ？？！！

「ハイキングだより」　新潟県連・みちぐさハイキングクラブ　１月号　電子版　Ｐ１２
＊一般募集はコロナで中止。会員１２名で新春大力山ハイキング。
Ｉさんの新ルートが良かった。

「やまなし山の会会報」　山梨・山の会　1 月号　NO.274　電子版　P20
＊熊野古道大峯奥駆道 100 kmを完全踏破、茅ヶ岳頂上標柱を壊さないで始末記、ほか

「くろゆり」事務局ニュース　三島勤労者山岳会　２月号　NO.493　P7　電子版
＊総会は、オンライン予定

「のいちご」　伊豆ハイキングクラブ　２月号　NO.400　P12　紙製本
＊近郊の山のハイキング多い。

「あしたか」　沼津勤労者山岳会　２月号　NO.表記ナシ　P10　電子版
＊計画、報告＝位牌岳、愛鷹山、八丁池、など

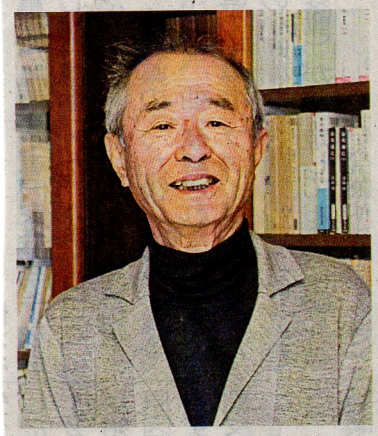
「あさぎり」　あさぎり山の会　2 月号　NO.328　A4 判　p31　紙製本
＊ハイキングの報告が多い。自然保護部「プラスチック問題」・その４

「登山時報」　日本勤労者山岳連盟　3 月号　NO.553　特集「熊を知ろう」　p40　紙製本
＊読みたい方は、事務局が保管してあります。

時の人

「日本百名山」をドイツ語に翻訳した

深田（ふかた）　勝弥（かつや）さん



伯父で作家の深田久弥（1903～1971年）が実際に全ての山に登り、万葉集や日本神話などを引用して山の魅力を伝えた名著「日本百名山」を、5年がかりでドイツ語に翻訳した。

久弥と同じ石川県大聖寺町（現・加賀市）出身。高校卒業後の1年間、東京都内の久弥宅に下宿したことがある。大学でドイツ語を学び、就職した化学メーカーで専門誌の翻訳を経験した。

自身は山登りは趣味程度だったが、2015年、英国人が日本百名山を英訳したと知り、刺激を受け翻訳を開始。最初に手掛けたのは「日本人は大ていふるさとの山を持っている」の一文で始まる久弥の故郷、白山の章から。自身も幼少期から親しんだ景色がよみがえり、以来、翻訳に没頭した。

原著の特徴である詩歌の表現には苦労したが、退職後も語学力を磨くために続けていた、俳句の五七五をドイツ語の音節で表現する「独俳」の経験が役立った。

完成した訳本はA4用紙で500枚以上。寄贈した資料館「深田久弥　山の文化館」（加賀市）で閲覧できる。ただ「まだ完成しない気がする」と謙遜し、推敲（すいこう）を重ねるという。

若いころ傘を差して帰ると、久弥に「雨くらいで何だ」と叱られたことを、ふと思い出す。「強く生きろと言いたかったのでしょう」。身近な存在だった久弥の作品だからこそ、こだわりを持って取り組めた。「へとへとになってマラソンを完走した思いだ」と笑う。妻と2人暮らし。83歳。

遭難者のヘリ搬送確認

沼津南消防署など　山岳救助で合同訓練

駿東伊豆消防本部沼津南消防署は19日、田方南消防署山岳救助隊、県消防防災航空隊と連携して山岳救助の合同訓練を沼津市の小鷲頭山などで行った。3機関から約30人が参加し、ヘリコプターを使って要救助者を搬送する手順を確認した。

山頂付近で登山中の男性1人が滑落したという想定で実施した。ロープなどで要救助者を滑落した斜面から引き上げ、県防災ヘリに収容して市南部浄化センターまで搬送した。

同本部によると、同山などが連なる沼津アルプスでは、昨年は2件の山岳救助事案が発生した。沼津南消防署の渡辺肇署長は「いざというときのため、今後も連携を深めたい」と話した。

ヘリで要救助者を搬送した山岳救助合同訓練＝沼津市の小鷲頭山

「入域条件」課し徴収

専門委 入山料税金化で案

富士山 つなぐ世界遺産

静岡、山梨両県の有識者らでつくる富士山利用者負担専門委員会は16日にウェブ会議を開き、法定外目的税として義務化することを検討している入山料（保全協力金）について協議した。富士山5合目より上に立ち入る登山者に対して「入域条件」を課す制度を新たに設けた上で、入域手続きの実施団体が集める手数料に上乗せする形で税徴収する案を取りまとめた。

制度案によると、入域条件としては、登山の予約制▽国立公園で導入例がある立入認定▽安全登山に関する講義の受講▽登山届の義務化―などを想定する。現地で入域手続きを担当する団体を特別徴収義務者とし、入域条件をクリアした登山者から手数料と併せて徴収した入山料を両県に納付してもらう。

富士山の入山料は世界遺産登録翌年の2014年に本格導入した。1人千円を基本に任意で徴収してきたが、認知度と協力率（登山者のうち入山料を支払った人の割合）が上がるにつれて「未払いは不公平」との意識が高まったため、両県は税金化にかじを切った。

専門委は制度案を3月15日に開かれる両県の世界遺産協議会作業部会に報告する。入山料の税額や特別徴収義務者の選定など詳細な制度設計は新年度以降になる見通し。徴収対象に5合目観光客を含めるかどうかについては検討課題とした。

富士山登山鉄道構想

山梨知事 国PT新設表明

2/9

富士山の山梨県側の麓と5合目を結ぶ「富士山登山鉄道構想」を巡り、同県の長崎幸太郎知事は8日、国土交通省など関係省庁による国のプロジェクトチーム（PT）が近く新設される見通しになったと明らかにした。

県が設置した検討会が都内で総会を開き、基本構想を取りまとめた後、報道陣の取材に応じた。「構想実現にあたり、関係省庁に相談できる器をつくっていただけるのではないか」と期待感を示した。ただ、経費や建設技術など事業化に向けた課題は少なくない。

まとまった構想は、既存の有料道路「富士スバルライン」上に次世代型路面電車（LRT）を整備することが柱。整備費は計140億円だが、往復料金を1万円と設定した場合は年間約300万人の利用を見込み、「事業成立の可能性は高い」とした。民間主体の運営を想定している。

一方で、課題として、厳冬期運行の安全性、事業を巡る官民での役割分担、噴火時の危機管理などを列挙。今後はこうした課題ごとに新たな検討組織を設け、議論を深める方針。並行して、麓の関係自治体向けの説明にも着手するという。

川勝知事へ近く説明

山梨県の検討会が8日に取りまとめた「富士山登山鉄道構想」について、同県の長崎幸太郎知事は本県の川勝平太知事を近く訪ね、内容を直接説明する意向を示した。山梨県は今後、実現に向けて本県側の自治体や関係者とも意見交換を進めていく方針だ。

長崎知事は「まず川勝知事と話をし、なぜわれわれがこの登山鉄道を目指していくのかという問題意識を共有したい」と強調。その上で「静岡県とどういう形でコラボレーション（協力）できるか、その可能性も探っていき

切り抜きは、全て「静岡新聞」から

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・写真　ＧＴ
山行番	ＮＯ．１９０２
日　時	２０２１/０１/２６日（火）
山　域	八ヶ岳・東天狗岳（２６４０ｍ）
コース	渋の湯下７：４８ー唐沢鉱泉分岐９：２９ー黒百合ヒュッテ１０：２０ー中山峠ー最高到達点（約２５００ｍ）１１：３８ー黒百合ヒュッテ１２：２４ー渋の湯下１４：５０
標高差	上り　渋の湯下約１８００ｍ～最高到達点約２５００ｍ＝約７００ｍ 下り　同上
快適度	5（５段階評価）＝藪はない
参加者	後藤、加藤＝２名

これでイイのか、渋の湯御殿

今回は、八ヶ岳・天狗岳と富士山・上塚でした。２５日は、L 通過で大雪。当初、富士山予定でしたが、好天が期待され、急遽、天狗岳に変更。

３時前起床。長泉発４：３０。寝不足感はなかった。天狗岳は西尾根が希望だったが、唐沢鉱泉まで除雪がないので、黒百合ヒュッテコース。渋ノ湯「下」発７：４８。

渋の湯下に駐車

渋の湯「下」発は訳があった。元々、７：２０ころ渋ノ湯着。天狗岳はここ何年か唐沢鉱泉から西尾根を数回上っている。渋の湯から上るのは、２０１３年２月以来だった。そんな訳で駐車場など、どのような「作法」か、よく分からなかった。

例えば、唐沢鉱泉は、駐車場は無料で道路わきに適当に置く。赤岳方面の赤岳山荘は駐車場有料だが車で行って置けば、係りのオバさんがやって来て料金を払う。

今回もそんな感じで、いつもの駐車場の「ロープを開けて」車を置いた。
　その間、相方が渋の湯に料金を持って行った。ところが（以前から何かと五月蠅かったバアさん）が凄い剣幕でやって来た。曰く「手続きは、渋の湯に車で来て事前にやってくれ。ロープを勝手に外して駐車は、不法侵入だ。警察に通報するぞ！！！・・・。」

渋の湯駐車場

　８年振りで駐車方法は分からなかったから、手続き前にロープを外して駐車したのは確かに申し訳なかった。しかし、これが、そんなに問題だったのか？？！！
　とにかく駐車できないことには、登山が始まらないので、相方は平謝り。しかし、バアさんは頑として受け入れず、「その辺に止めるなり、好きなようにしろ。林道に止めたら、レッカーで持ってくぞ！！！」だった。ジジイも出て来たが、何としても翻意しない。

　以前から「問題があり、必ずしも評判が良くなかった」渋の湯だが、ここまでとは思わなかった。こちらが決して高圧的な態度をとった訳ではない。結局、他の山移動案もあったが時間が勿体ない。仕方がなく林道を下ったら、カーブの所に除雪スペースがあり車は置けた。やれやれである。山に上る前にこのようなアクシデントですっかり疲れてしまった。

　過去、山小屋・山荘・ヒュッテのトラブルは何件かある。おおむね、「理不尽・横暴・横柄・理由不明」と感じる。古くは、甲斐駒・黒戸尾根の五合小屋（現在はない）のＦ小屋オヤジ。
　この方は、既に故人だが、「悪名は高かった」。同じ南アルプス、農鳥小屋のオヤジ。この方も「最悪の評判」だった。何故か南アルプスが多いような気がするが、思い過ごしか・・・。

　記憶に新しい所では、２００１年４月、北アルプス・蓮華温泉。詳しくは、下記 URA だが、こんな山小屋もある。この時は、正に「ふんがい」した。
http://susono-reihou.babyblue.jp/925.pdf

http://susono-reihou.babyblue.jp/926.pdf

また、２００７年１０月、甲斐駒・黒戸尾根～甲斐駒～北沢峠の時、仙水小屋の対応にも驚いた。
http://susono-reihou.babyblue.jp/223.pdf

２００７・駒津峰

仙水小屋

十数名で仙水峠から仙水小屋に下って来た。秋の好天で喉が渇いた、小屋前の水場にホースから冷水がガンガン流れている。飲もうと思ったら「勝手に飲むな」の看板。この時点で「ム・ム・ム」だった。小屋の敷地の入り口に、何故かロープが張ってあった。ま、小屋などは「来るもの拒まず」だから、ロープは何の意味？？だった。要は、ここも「勝手に入るな」だ。小屋のオヤジが顔を出したので、
「女子のトイレを貸して下さい」というと、
「ダメ」
「お金を払います」
「ダメ」
「北沢峠にあるので（歩いて約３０分）そこで、やってくれ」
その理由はいわない。
「ったく～」
次に、
「ビールを売って下さい」
「ダメ」
「何故ですか？？}
「俺がアンタにビールを売って、それをアンタが飲んで、酔って転んで
怪我をして、俺が訴えられたら最悪だ？？！！」だった。それから先は、もはや会話にならなかった。（ま、これは少し筋があるかもだが）

山小屋の不条理・理不尽・無配慮・非常識は他にもある。２０１８年１月、八ヶ岳・赤岳鉱泉に泊まった。小屋は標高約２２００ｍ。１月だから周りは氷の世界。
小屋に入って驚いた。スリッパがないのだ。決して「床暖房」をしている訳ではない。まさか、そんなことはあるはずはないで、スリッパは持参しなかった。それが普通だろう。

足が冷えるのは辛い。食堂で飲んでいても、何か落ち着かない。小屋の外は、マイナス１５度くらい。室内でもゼロ度近い。

ところが、更に驚いたのは、そこで働いている従業員は、何としっかり「スリッパを履いていた」これは「虐待」だ。「虐待」のほか何物でもない。しかし、ここまでの「常識のなさ」は、一体何だろう。日本人もここまで落ちたか。

２０１８・赤岳鉱泉・・・スリッパなしで足が冷える

また、２００６年１２月、北沢峠・こもれび山荘に泊まった。小屋はどこも概ね自家発電。だから、就寝時間は早い。だいたい２０時には消灯する。従って皆様、その時間に休む。

当日は、寝床が二階だった。翌日は仙丈岳登山だから、２０時を過ぎてすぐ寝たが、何故か階下で「おしゃべりが続く」。しかも、そこに小屋番が加わっていた。小屋を管理する小屋番がこれではマズイ。

３０分過ぎてもおしゃべりは続いていた。ここで私の我慢もブチ切れた。「コラ～、今何時だと思っている。消灯時間は２０時だろう！！！」静かになり、スッキリした。これで快眠。

と、まあ、文句ばかりズラズラ書いた。それは事実だから、仕方がない。ただ、山小屋・山荘・ロッジなどは、当たり前だが、感じか良い所が多い。不快なのは一握りのところだ。

前述したが、そもそも、ほとんどの小屋は国・市からの借地で成り立っている。最初に書いた、

渋の湯駐車場は、国からの借地。いってもれば、我々の税金が使われている訳。ならば、もう少し「謙虚な姿勢」があってもしかるべきではないのか。
　小屋は、登山者に便宜をはかったり、手助けをしたり、時には啓蒙したりが、望ましい本来の姿。そのところを忘れてしまった、昨今の山小屋は何としても残念である。

北沢峠・こもれび山荘

　そんなこんなで、何とか駐車し登山開始。「いじわるバアサンは、何処にもいるのか？？」
結局、その日、もう一台駐車したので、収入は、マイナス２０００円。
　昨今、コロナで宿の客は多くはないだろう。己の首をわざわざ自身で縛ることはないと思う。そこまでの拘りは、何か不明である・・・。

　・・・久しぶりの黒百合ヒュッテの道だったが、長く感じた。渋の湯から約２時間半掛かる。やっぱり３時起床は、体に厳しいか。ヒュッテに着くと、早くも空に雲が広がり始めた。ヒュッテ前に登山者が何人かいた。ここに昨年、会員のＴが就職したが、３ヶ月で退職した。在職時に訪問を楽しみにしていたが、何で辞めたか不明。残念だった。
　天気は下り坂。これは、モタモタ出来ない。中山峠を越えて、急な上りに入る。峠を越えると風が強くなる。

　東天狗と西天狗が目の前に広がった。まだ、完璧に白くはなかった。昨日の大雪で深い雪に足を取られる。上から若い男女が降りて来た。下山時間が早い。
　聞けば「東天狗岳下を上っている時、ボコっと音がして、キレツが走った」という。キレツは、二か所という。
　「音・キレツ」は、ある意味、雪崩を知らせるサインだ。つまり「雪・自然の声」だが、無視は出来ない。上って行くと、また、若い衆が降りて来た。聞けば、やはり「雪崩が心配だった」という。無理もない。ここ何週間か雪が少なく、山の積雪は多くなかった。そこに、ドカッと大雪が降った。他の記録でも、このところ雪崩の情報が多い。
　音・キレツは、典型的な「新雪表層雪崩」の可能性がある。注意に越したことはない。下山した方々が到達した最高点に着いた。

黒百合ヒュッテ

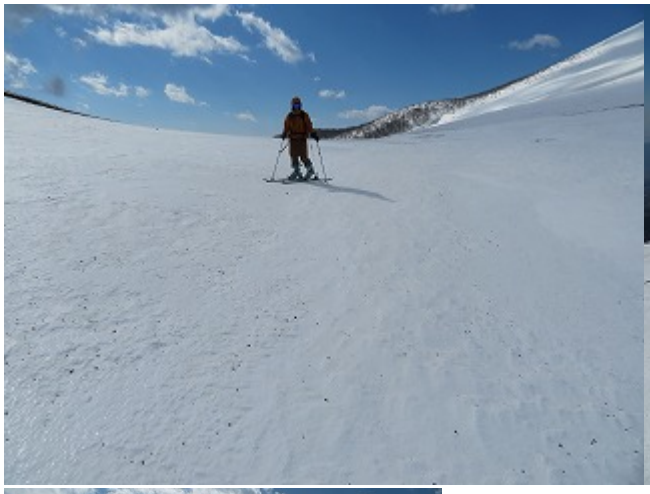
左・東天狗岳　右・西天狗岳

　標高は、約２５００ｍ。そこは吹きっさらしで風は強い。従って極めて寒い。先は誰も歩いていない。ラッセルは厳しい。時間は１２時・・・。

　今回もここで、戦闘意欲がなくなった。お山は厳冬期で厳しかった。即、下山。下山も、やたら長く感じた。最近、「道が長く感じる」これも「老化現象か？？！！」

　渋の湯は、特に問題なかった。グッド・バイ・バアさん。また、来よう。いや、もう、ここは来ないかな。絶対、来たくないね！！！　（了）

写真報告　2/9　　富士山・山岳スキー　　後藤・加藤



裾野麗峰山の会・山行報告書	文・写真　　ＧＴ
山行番	ＮＯ．１９０５
日　時	２０２１/０２/０９（火）快晴
山　域	富士山・上塚（１９２９ｍ）
コース	洞門９：３０ー駐車場上１０：２５ー幕岩への道ー幕岩（昼食）１１：３７～１２：１６ー幕岩上ー上塚１３：３１ー洞門１５：２５
標高差	上り　洞門約１２８０ｍ～上塚１９２９ｍ＝約６４９ｍ 下り　　同上
快適度	5（５段階評価）＝藪ない
参加者	後藤、加藤、斎藤由利子（ゲスト）、荒木朱美（ゲスト）＝４名

久しぶりに斎藤さん等と登山

斎藤由利子さんとは、古い山仲間だ。以前は、麗峰に在籍していて何回か山に上った。しかし、その後、会が分かれ、登山の機会はなくなった。同じ長泉町在住で、我が家から５分くらいの所に住んでいるから、いつも気にはなっていた。

しかし、昨年５月３０日、越前岳ブナ植樹地手入れ時、偶然、お会いした。数十年振りだった。彼女はＳ山の会で登山に来ていた。娘さんも一緒だった。知り合ったころ、娘さんはまだ就学前だったが、聴覚障害を持つ斎藤さんを一生懸命手助けしていた。その娘さんも、今は結婚をして随分立派になった。

２０２０/５/２０　斎藤さん親子

その後、今年になり、先日、富士山・二ッ塚で再びお会いした。斎藤さんは、同じ障害を持つ静岡の荒木さんと二ッ塚に来ていた。ただ、二人は本格的な雪山は未経験。二ッ塚も未だ上塚に上っていないという。

両名は積極的な方で雪山大好き人間。「雪山に上りたい」という。Ｓ山の会は、基本的に雪山をやらないから、「ゴトーさん、連れてって」という。では、「行きましょう」で、今回の山になった。

ただ当初、八ヶ岳・坪庭案があったが、いかんせん、冬山装備・経験が分からないので、取り敢えず、訓練になった。そして今回無事、上塚も登頂。良かった。

荒木さんの記録

縁があって後藤さんと加藤さんに上塚ハイキングコースに連れて頂けました。2 人に冬山の歩き方色々教えて下さり冬山を歩く楽しみが増えましたことを感謝しております。
アイゼンの重さに冬登山靴の硬さ。夏山と全く違ったことも楽しきことでした❣

私と誕生月日が奇遇にも全く同じ加藤さん、なかなか素敵な女性で憧れの的です。後藤さんも色々はっきり指導してくださり頼もしく安心してついていけました。

その日は快晴で風もなくキラキラ輝き、雪景色の白さと突きつけるような空の青さとコントラストが美しくてとても最高な一日でした。素敵なプレゼント？をくださった後藤さんと加藤さんに乾杯‼(ビール)　　荒木朱美

アイゼンを履く

斎藤さんの記録

後藤さん、加藤さん、忙しい折にもかかわらずこの企画をたててくださって、本当に有難うございました！

今回はインパクトが強いもので、教わることも多く、有意義な時間でした。大ベテランの豊富な経験、存在感は大きいものです。いつも下塚で、いつか上塚をと思っていただけに感慨深いものと

なりました。

　幕岩横断道は水平で歩きやすく、人もいない。会長からウサギの足跡を教えられ、ほのぼのとした気分に。

横断道

幕岩下

幕岩

昼食のうどん

幕岩上

雪山バンザ～イ！！！ヽ(^o^)丿

新調した冬山の靴、12 本のアイゼンで初めての雪歩きの荒木さんにぴったり付き添ってくださった加藤さん、有難うございます。

上塚からの下降は下塚へ向かうのかなと思ったら登りと同じコースで急降下、慎重にあっという間に終わり、雪歩きはよかったです。雪山の基本的な歩き方の再認識です。

まだまだ地形を読み取って歩くことが難しい。

また、上塚の急登には一瞬、思わず、ひるみましたが、大ベテランと一緒だっただけに迷わずにトライできたことも収穫でした。

富士山は、色々な顔があり、それぞれ味わいのあるものですね。

快晴、無風の好条件、さすがに 360 度の展望のよさはひけをとらない。これだから山はやめられない！

また、行きたいなあ！加藤さん、魅力あるなあ！

年齢はもちろん、会長と富士山の頂上から山スキーをやるとちょっと伺い、度肝を抜かれました！！

その記録、ありますでしょうか？ぜひ読みたいです。知りたいです。

ますます加藤さんといっぱい話をしたくなりました。どうぞ、よろしくお伝えください。

上塚に上る

今日の凱歌に足取り軽く

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・ＩＫ　　写真・ＧＴ
山行ＮＯ.	1906
日　　時	2021 年 2 月 13 日（日）無風快晴・高温
山　　域	八ヶ岳・横岳（2829m）杣添尾根
コース	長泉 5：00－海ノ口別荘地発 7：40－三叉峰 11：40－横岳 11：58－2615m 森林限界の上まで下りて昼食 12:50～13:18―下山開始 13:20－駐車場着 15:40（先着 15：03）－長泉着 18:40
標高差	上り　約 1750m～2829m＝約 1079m 下り　同上
藪漕度	なし
難易度	非常に困難　　困難　レやや困難　普通　やや易しい　易しい
参加者	後藤（73 歳 12 ヶ月）、加藤、勝又、井上＝4 名

今回は春山、されど 4 カ月ぶりの山洗礼

昨年は 2 月 8 日（土）に登り、ほぼ同じ時期の同じ山である。後藤さんと加藤さんは、前日移動前泊。勝又さんと私は、当日移動。

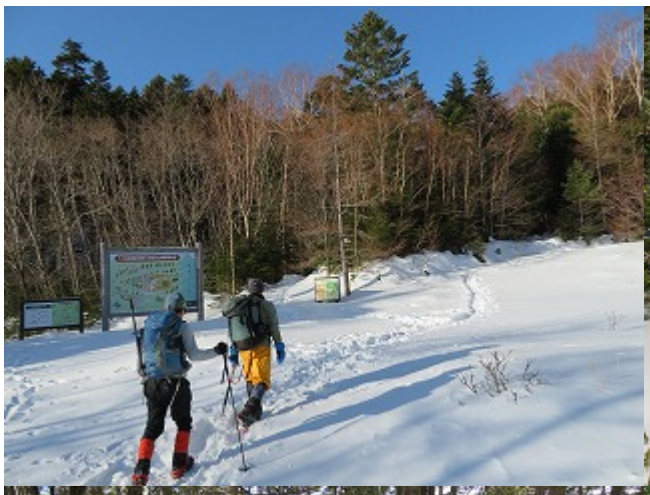
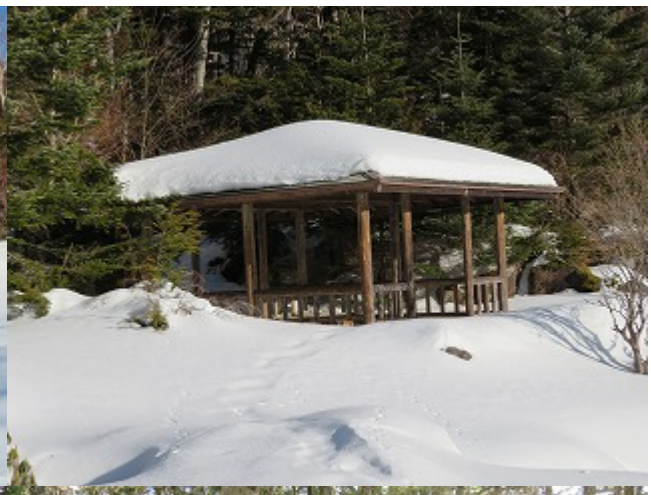
天気は快晴。赤岳もこれから上る横岳も何も遮るものはなくくっきりと青空に浮かんでいた。

別荘地の駐車場につくと、同じ沼津ナンバーの車が到着。後藤さんの顔なじみの人のようだ。男女のペア。その他に若い男女のペアがいて、先に出発した。

右・元会員 Y（真ん中の女子のアイゼンに注視！！）

カッパのズボンを穿き、スパッツ、1 本縛りアイゼンを付ける。革靴とアイゼンで合わせて片足約 2kg の重さ上は長袖 T シャツにマイクロフリース。サングラスに、ニット帽子、ネックウォーマー、手袋は 3 枚セット。昨年、下山後しばらく両手中指がしびれていたので、今回はミトンのなかにカイロを入れた。

昨年の失敗は、初めからゴーグルをつけて登り、森林限界より上で吹雪き、ゴーグルが凍って

何も見えないですごく不安だったとことと、手指のしびれが残ったことだった。

今回はサングラスとカイロで対策をした。しかし、本当の問題は、年末年始の海外出張などで、4 カ月ぶりの登山で標高差 1100m 近くの雪山に体が耐えうるかどうかだった。

勝又さんは昨年、三叉峰で引き返したので今年は 1 年越しのリベンジだ。森林限界までは森の中とはいえ、雪がしっかりある。いつもの沢を渡ったが、先行者の足跡はなく、本来の登山道から行ったようだ。我々は、いつものコースを行くがラッセルが必要だった。

加藤さんがまず行った。鹿の足跡を追いかけるラッセルだった。次に私が行った。

ここ数年の登頂時間を調べてみた。（後藤）

２０２１、２・・・・・・７：４０～１２：００＝４時間２０分
２０２０、２・・・・・・７：４５～１２：００＝４時間１５分
２０１９，１・・・・・・７：２０～１１：４０＝４時間２０分
２０１８、１・・・・・・８：３５～１１：５３＝３時間１８分
２０１７，１・・・・・・７：５０～１２：０９＝４時間１９分
２０１６，３・・・・・・７：００～１１：１０＝４時間１０分
２０１５．登山なし
２０１４、３・・・・・・６：３０～１１：０５＝４時間３５分
２０１３、１・・・・・・７：０５～１０：５５＝３時間５０分

林道に出て池のある東屋に来ると、他の足跡と合流した。まずは 3 時間の森の中の尾根歩き。ひたすら森の中の雪道を登る。非常に退屈。汗がサングラスに落ちて視界を邪魔し流れ落ちていく。ピッケルを雪に刺して、イチ、ニと歩いてみたり、後藤さんの足の運びをまねしたりしながら、とにかく我慢、我慢。

単独の男性が追い抜いた。後で聞くと、大阪から 400 ㎞車で来て、3 日間登るらしい。あと 3 年で退職なので、引退後は長野に家を建てて、1 週おきに山と大阪と生活をしようと目論んでいると

のこと。1 日でもたいへんなのによく 3 日連続で雪山を登れると感心した。

だいぶん登ってから、左手に富士山が現れた。雲海の上に雪でまだらの筋を付けた富士山。まるで浮世絵を見ているかのようで、見惚れてしまった。やっと見るものができて気分転換になった。あとは森林限界を抜け、雪山の世界に入る。

左右の両サイドが切り立った尾根の上を歩くのは爽快だ。昨年は、霧で視界も悪く、足元に注意してかなり慎重に歩いた。今回は風がなく、景色も 360 度快晴でいうことなし。しかし、森林限界

を超えたところで私の太ももは筋肉痛になって、悲鳴を上げていた。

そこから三叉峰までの雪は昨年の方が多かった。見上げると、ペアが 3 組と大阪の単独男性が見える。登りのスピードは私たちとほぼ一緒。なんとか三叉峰まで上がった。横岳まで一度下り、はしごを使って頂上へ。昨年は一人頂上に登らせていただいたが、ホワイトアウトと凍ったゴーグルのスクリーンのため、まわりは何にも見えなかった。

今年は、すごい。きっとこれ以上の天候、風景はないし、もしかしたら、もう二度とこの景色を見ることはないかもしれない。頂上で写真を撮って下る。雲海の上の富士山に向かって歩く。ここ

から 50 分下り、ビールを飲んでも足元に心配のない森林限界の少し上で昼食休憩。加藤家特製ワインをいただき、これをビールでわると、この上なく美味しかった。

下りは、ただただ、森の中の雪の道を単調に下り続ける。途中でアイゼンを外す。足が軽い。そして、荷物が重くなった。足が楽になり嬉しいのもつかの間、アイゼンを外したため、かかとで蹴りこんで下ればよいのだが、足が痛くてできない。ほとんど横歩き。

100 歩数えては休憩する。痛さと、呼吸のしんどさ、のどの渇きで、勢いよく下りられない。この辛さは、山を始めたころに体験した燕岳の東沢コースの時以来ではないか。4 ヶ月山に行かないことがどういうことか身にしみてわかった。

前を行く 3 人からどんどん遅れていることは分かっているが、亀のように足を前に出すことしか

出来ない。別荘地に入ったが、駐車場から来たコースを忘れて別荘地内で迷った。住人に駐車場の場所を聞いて歩く。加藤さんから電話がかかってきて状況を説明。かなり長い時間待ってくれていたようで、後藤さんと加藤さんは、先に出るとのこと。ようやく駐車場につく。

昨年は昼食後の下りは１時間４８分だったが、今回は 2 時間 20 分かかった。半分以下のスピードさかと感じていたが、実際は 9 割くらいだったので意外だった。

皆様、ご心配おかけし、申し訳ありませんでした。帰宅して見てみると、左足のアキレス腱辺りが腫れていた。（了）

その他の記述（後藤）

１．登山口で昨年も会った別荘のご夫婦とバッタリ。聞けば、ご夫婦は和歌山県の方だった。別荘は大きく立派。冬は零下２０度になるこの地では、管理人に頼めば、到着前に暖房をオンしてくれるそうだ。使っている車は、ピカピカのボルボ。まだ若いように見受けるが、このような方は、一体、どんな生活を送っているのか・・・。
２．男女２名の隣の車が沼津ナンバーだったのでお声がけをした。話してみたら、男性は元会員、裾野のＹだった。退会したが山は続けているようだ。ただ、相方の女性が笑ってしまった。Ｋが「そのアイゼン、変わっているね」と問いただしたら、何とアイゼンを前後に装着していた。私も長く山をやっているが、そんな光景は、初めて見た。つまり本来、飛び出ている１２本目の爪は、つま先方向に装着するが、何故か「かかと方向」を向いていた。いやいや、それでよく装着出来たと、「妙に感心してしまった」。ただ、そのような方が、本当に冬山志望なのかと、考えてしまった。
３．大阪から来たという、中年男性は森林限界で抜いて行った。ここまでアイゼンを履かないで来た。ただ、何故か下山は最後まで履いていた。逆だと思うが・・・。
４．横岳を下って行くと、前述の元会員Ｙは、標高約２６００m付近にいた。相方の女性は「こ以上、上れないから、ここで終わり」といった。結局、Ｙもここで終了した。
５．この日の登山者は、１０名くらい。ま、若い衆が多い。我々のような７０歳代は稀有だ。
６．下山時、「蟻地獄（雪が緩み、雪穴にズボっとハマる）」に、２～３回、ハマった。
７．昨年は、白内障でホワイトアウト。足元不明で苦労し、頂上下の梯子で断念した。今年は１月に両目の手術が終わり、ハッキリ・スッキリ・バッチリだった。

何かちょっと、おかしいぜ　　後藤

２月１７日、NHKBS「グレート・トラバース」で、田中陽希が雪庇下・東面（風下）に雪洞を堀り利用した。しかし、あれは間違だ。過去、雪庇下・東面（風下）に雪洞を掘り利用し雪庇が崩れ死亡した事故が過去何件かある。

確かに、東面に雪洞を掘るのは楽です。何故なら積雪量が多いからだ。雪が多いから簡単に雪洞が掘れる訳。田中はそれを知らないのか？？もし知らないのなら、彼は「素人」です。

しかし、それを知っていて雪洞を堀り利用し、それが「あたかも正しいやり方」で報道した NHK は、何も知らない、視聴者に誤った報道をしたことになる。

NHK もそれを知らない連中ばかりなのか？？NHK は、訂正なり、陳謝なり、釈明をすべきだ。あんな放送をする NHK は金を返せ、また、間違ったことを平気でする田中は、辞めてしまえ。

１９日、NHK の回答　　後藤隆徳　様

グレートトラバースをご視聴いただきありがとうございます。また貴重なご意見をいただき、こちらもありがとうございました。

さて、ご指摘の田中陽希氏の雪洞の作成箇所についてですが、ご指摘の通り、斜面の東側・風下側に作成していました。ただ、現地に同行したスタッフによると、雪洞を設置した斜面は急傾斜ではなく、雪崩のリスクも低かったこと、（１）

雪庇も周辺には若干発生していたもののいずれも小さく、（２）崩壊に巻き込まれる危険性は小さい場所だったとのことです。また専門家によると、（３）雪洞の作成場所は、必ずしも風下側・東側斜面がダメということではなく、

風上側も、風や雪が吹き込んだり、悪天候下で雪による埋没のリスクもあるため、雪質や傾斜、地形、雪の深さなどからリスクの大きさを見極めることが、より重要であるとのことでした。

この日は夜に天候が悪化することが予想されていたこともあり、田中氏の選択は、現場でリスクを最小限にすることを考えた選択で、必ずしも誤りだったとはいえない、と考えています。とはいえ、山でのリスクは０ということはありません。これからも、山のリスクについて十分考慮し、伝えていけるよう番組制作に努めていきたいと思います。（４）

今後とも、グレートトラバース、並びにＮＨＫの山番組をよろしくお願いいたします。

「グレートトラバース」担当ＮＨＫふれあいセンター（放送）　　＊赤字は編者

感想

事故がなかったのは、たまたま、運が良かったから。特に悪天候時は、気温が上がるから雪庇崩壊のリスクは高い。

（１）問題は、雪洞の場所ではなくて、上部の雪庇だ。分かっていない。

（２）ビデオ画面で再三観たが、上部の雪庇は十分、大きなものである。

（３）そもそも、「専門家」とは誰だ。我々、現場・現役が専門家だ。相変わらず、権威主義だ。

（４）要は、「公共放送が、いい加減な報道をするな」ってこと。反省・謙虚さはゼロ。NHK は受信料を返金せよ。

（５）私は受信料１年分一括で払っている。事と次第では、次回、払わんぞ。

（了）

日本勤労者山岳連盟
静岡県勤労者山岳連盟・東部ブロック
裾野麗峰山の会（愛称・れいほう山の会）
会報「れいほう」
第２６期・12巻　　２０２１・３月号　　NO.２３５
連絡先　静岡県駿東郡長泉町下土狩1541-12　徳山荘
090-8956-9990　　055-986-6075
HP　　http://susono-reihou.babyblue.jp/
mail　　takanori_reihou8888@yahoo.co.jp

2021/02/09　　雪山に上る喜び。ヨロ・レイホ～！！！　　富士山・上塚コル